

山口県立大学附属図書館報

YPU Library

Library of Yamaguchi Prefectural University

第10号 平成20年(2008年)10月1日 発行



巻頭言

附属図書館長 市村 孝雄

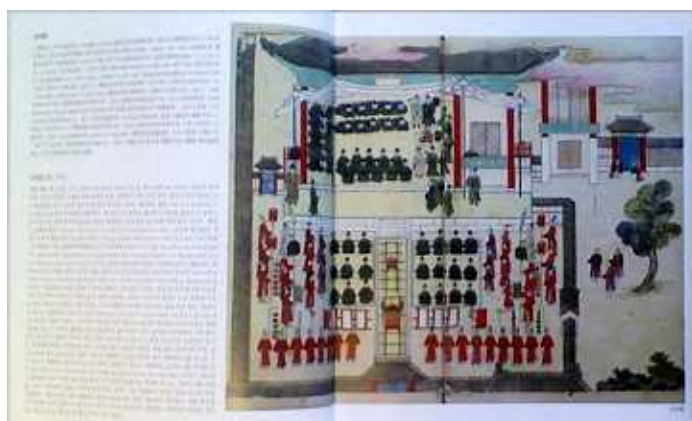
9月初め、江里学長を団長とする学術交流訪韓団に加わり、馬山市の慶南大学とソウル市の北韓大学院大学・極東問題研究所を訪れました。

慶南大学では、馬山の港を見下ろす眺望絶佳のキャンパスに8~12階の高層建築が続々増築中で、その一角に慶南大学博物館が新装開館したところでした。(写真右)

博物館長の案内で、半島の石器時代から李朝時代を経て現代に至る貴重な歴史資料の展示を拝観しました。中でも、1995年に本学から寄贈した寺内文庫旧蔵資料の何点かは、重厚なガラス張りの展示ルームに収められ、圧倒的な歴史の重さで目を奪うものでした。李朝時代の王子教育を示す色彩豊かな図譜には、ハングル文字で成人教育の理想が記されていました。驚きでした。

北韓大学院大学・極東問題研究所では、本学の江里学長以下訪韓団と慶南大学・北韓大学院大学の朴総長以下理事長と研究所長が一堂に会して、寺内文庫の資料整備相互利用と研究交流について、今後の進め方を話し合いました。この文庫資料にたいする総長の思いは格別深く、双方のよい関係に立って大切にしていきたいとのコメントがありました。本学の附属図書館に収蔵されていた歴史資料が隣国でかくも大切にされていることを改めて思いました。

附属図書館では、さっそく専門家の力を借りて、本学に残る朝鮮朝関係資料の未完の手書き目録を整備して電子化を進め、日韓研究者への公開を急ぐことにしました。電子目録が公開された暁には、双方の研究者から、長年埋もれてきた資料に新たな光が当てられることでしょうか。その成果をもって寄贈資料の移動展示も可能になるかも知れません。そうなれば、日韓の歴史を語る稀少な資料に直に触れる貴重な機会となるでしょう。このような展示を常設できる立派な展示館が欲しいものです。ネット情報共有の時代であってもなお、大切にしたい空間ではないでしょうか。近い将来、新キャンパスの「ラーニングコモンズ」に実現することを願っています。



(写真左)「丁丑八学図帖」所載「受賀儀」
慶南大学博物館「未来館」収藏品図録「墨縁」より

図書館からの耳より情報

「**メディカルオンラインライブラリ**」
ー(国内医薬関連ジャーナルの総合サイト)の**無料トライアル**(ついに3回目!)を**10月14日から1ヶ月間実施**します。どうぞご利用ください!

図書館で働き始めて

下松市立図書館 司書 古城 奈穂

山口県立大学で司書課程を履修して司書資格を取得、4月から下松市立図書館で勤務しています。本が好きで図書館を頻繁に利用していた私にとって、図書館司書は憧れの職業でした。念願だった図書館で勤務していることを嬉しく思います。



図書館の業務が多岐にわたるということは司書課程を履修するなかで学んで理解していたつもりでしたが、実際に業務に携わると思っていた以上に作業が多く覚えられるのか不安でした。勤め始めた当初書架配置がなかなか覚えられず、返却された図書の配架に苦労しました。利用者から「～に関する本はないか」という質問を受けたときは、未だに書架配置図や検索でどの分類に属するか目途をつけて棚に案内するため、時間がかかり利用者には迷惑をかけてしまいます。一人で対応しきれない場合は、他の職員に聞いたり一緒に探してもらったりしながらなんとか利用者の求める資料を提供できるように努力しています。提供した図書で満足していただけることもあれば、求めていたものと違って納得していただけないこともありますし、資料を探すのに時間がかかりすぎてその間に質問した利用者が帰ってしまったということもあります。私自身の知識不足、館内の資料に精通することの大切さをいつも痛感させられています。配架するときは図書のあるべき場所に戻すことしか頭にないのですが、どこにどんな図書があるかということ常意識して短時間で的確に利用者の求める資料を提供でき

るようにならなくてはと思います。

当館には予約・リクエスト制度があります。利用者は新聞の書評等を見て読みたいと思った本をリクエストすることができるのです。書名・著者・出版社を記したメモを持って「この本ありますか」とカウンターで聞く利用者に多く接します。端末で検索し、所蔵している場合は貸出中でなければすぐに提供できますし、貸出中の場合は予約していただき貸し出せる状況になれば連絡するようにしています。しかし、所蔵していない図書の場合も多々あります。その場合、購入あるいは他館からの借り受けで対応しています。他館から借り受け提供する相互貸借システムは、学生時代に聞いたことはあっても初めて接するものだったのでとても新鮮でした。県内にある資料は県内の図書館に依頼して提供していますが、県内の図書館が持っていない場合は他の都道府県内の図書館から借り受け提供しています。どこも所蔵していない場合は国立国会図書館に依頼することもあります。図書館の図書収容スペースには限度があり、リクエストされる図書をすべて購入して提供することはできません。相互貸借システムは、その点を図書館間の連携・信頼によって補う欠かせないものになっていると思います。利用者にとってはリクエストした図書がすぐに手元に届くわけではないので多少不便な点があるかもしれませんが、利用者には満足して図書館を利用してほしいと願っている図書館側にとって相互貸借システムは重要なものです。その点を思いにとめて相互貸借システムを利用していこうと思っています。

図書館で働き始めて半年。実際に現場で働かないとわからない、仕事をしながら覚えていくという言葉の意味を実感しながら業務を行っています。雑誌の装備が難しくて見栄えが悪い仕上がりだったり、登録でミスをしたり、新刊図書のデータ処理が抜けていたりと周りに迷惑をかけてばかりの私ですが、楽しくやりがいを持って働けているのは他の図書館職員のおかげです。いつも私を支えてくれる方々に対する感謝の思いを忘れずに、図書館員として日々努力していきたいと思っています。

(平成20年3月 国際文化学部卒業)

「平成20年度公立大学協会図書館協議会研修会」に参加しました

附属図書館 主事 藤井 佳代

9月4日(木)から5日(金)の日程で「平成20年度公立大学協会図書館協議会研修会」(会場:広島市立大学)に参加しました。

これは毎年開催されており、全国の公立大学の図書館関係者が参加する研修会です。本年度は「大学図書館の魅力アップ術 - 学生の利用率向上を目指して - 」というテーマに沿い、基調講演と3大学図書館による事例報告があり、総勢約50名の参加者となりました。中でも特に印象に残った事例をご紹介します。

一例目は国際基督教大学図書館です。こちらの大学は東京都三鷹市に位置し、蔵書は約67万冊あります。近年多くの大学で入館者数の減少が顕著となっている中、こちらの大学では2000年に「ミルドレッド・トップ・オスマー図書館」をオープンさせたことに伴い、年間入館者数30万人台を維持しています。

この図書館の最大の特徴は、インフォメーション・コモンズ構想のもとに、あらゆる情報にアクセスできる環境、様々な学習形態に合ったスペース、充実したサポート体制を整えているということです。学生は図書館で参考となる図書や雑誌を手し、スタディエリアの個人席に設置されたパソコンでレポート等に取り組み、インターネットや電子ジャーナルからも情報を引き出すことができます。またわからないことがあれば、レファレンスサービス・センターで訊くこともできます。

この図書館に来れば、67万冊の蔵書や電子ジャーナル、またインターネット上の情報を垣根無く行き来しながら学習できる環境が整っています。講演では自動化書庫の話題もあり、大規模かつ先進的な図書館の姿に圧倒されましたが、学生の学習拠点としての役割を果たすという使命感を感じました。



二例目は東京女子大学図書館です。こちらの大学は東京都杉並区に位置し、蔵書は約48万冊あります。平成19年度に「マイライフ・マイライブラリー - 学生の社会的成長を支援する滞在型図書館を目指して」というテーマで学生支援GP(グッド・プラクティス: 国公立大学を通じて優れた教育的取り組みを行っている大学に対する国の補助金)に採択され、「学生協働サポート体制」を築いています。

この体制により、ここでは学生アシスタントが様々な場面で活躍しています。自らが図書館を利用している際に他学生からの質問等に答えるボランティアスタッフ、配架や蔵書点検、利用案内などの図書館業務に従事するサポーター、また学習面で学部生の質問に対応する学習コンシェルジュと呼ばれる院生スタッフ。講演では学生達がこれらの業務を経験し、人に教えることで、自らも成長してゆく姿をうかがい知ることができました。また学生を単なる利用者としてではなく、図書館運営を支える仲間として捉え、学生と一緒に活動することで、図書館にとっても新たな発想を生み出す原動力となっていると感じました。

(次のページへ続く)



本学教員出版物の紹介

- 平成19年7月以降寄贈を受けたもの -

- 「血管無侵襲診断テキスト」
江里健輔他著
- 「ロス&ウィルソン健康と病気のしくみがわかる解剖生理学」
(改訂版)
市村孝雄他訳
- 「中世都市・博多を掘る」
伊藤幸司他著
- 「日本の生命倫理：回顧と展望」
岩本テルヨ他著
- 「中国経済改革と洋務運動」
折戸洪太著
- 「大学生のための手話ハンドブック」
加登田恵子他著
- 「ソーシャルワークと権利擁護」
田中耕太郎他編著
- 「社会保障改革：日本とドイツの挑戦」
田中耕太郎他編著
- 「はじめての社会保障」(第6版)
田中耕太郎他著
- 「動画でわかる褥瘡予防のためのポジショニング」
田中マキ子編著
- 「動画でわかる手術患者のポジショニング」
田中マキ子他編著
- 「華僑文化の創出とアイデンティティ」
張玉玲著
- 「視覚障がいと点字の世界」
中村実枝他編著
- 「大学生のためのボランティア活動ハンドブック」
藤田久美編著
- 「金郷方言志」
馬鳳如著
- 「ハリウッドの密告者」
三宅義子訳

(徳田)

編集後記

慶南大学博物館「未来館」の「寺内文庫室」で、ガラスケースに収まった桜園寺内文庫旧蔵資料を見ました。資料にはTW(寺内文庫・和装本)に分類番号が付いた当館のラベルがそのまま残っており、図書館員としていささかの感慨を覚えました。
(町田)

編集・発行/山口県立大学附属図書館

〒753-8502 山口市桜畠3-2-1

TEL.(083)928-0522 FAX.(083)928-0279

E-mail: lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/index.php?M_ID=9



今回の研修での事例報告を聴いて感じたことは、図書館は単に図書を貸し出したり、閲覧や学習する場を提供したりするためだけのものではないということです。図書館全体での学習支援を柱とした、学生の知的活動の拠点としての「滞在型図書館」という将来の図書館像を見ることができました。また上記二大学の図書館にはいずれもグループ学習室が設置されていますが、大学図書館は独学の場所というだけでなく、仲間と議論して共に考える場所でもあります。そういう意味では図書館とは書物や情報とのつながりを提供するというだけでなく、人とのつながりも提供する場であると思います。大学図書館とは知識に出会い、情報に出会い、また人に出会い、それらの出会いが複合的作用を起こして新たな知の創造を生み出す場であるべきであるということを強く感じた研修会でした。

(写真・図版は研修会資料の「東京女子大学図書館利用案内」、「東京女子大学2009大学案内」から転載させていただきました。)